

守、太政官處分並依請、

〔禁秘御抄〕上、草木

松、應和二年栽東庭、又栽瀧口廊前、又栽綾綺殿北廊南庭、文範進之、

〔土州淵岳志〕中、杉

高岡郡伊野村杉本大明神ハ、大己貴ノ命ヲ祭リ奉ルト云、神主杉本攝津方ヨリ板行シテ、諸方ヘ配ルナリ、此社頭ニ大木ノ杉數ヲシラズ有、住吉大和ノ三諸山ノ杉苗ヲ植シトイヒ傳フ、

〔日本書紀〕神代、一書曰、素戔鳴尊曰、韓郷之島、是有金銀、若使吾兒所御之國、不有浮寶者、未是佳也、乃拔鬚髯散之、即成杉、中已而定其當用、乃稱之曰、杉及櫟樟、此兩樹者、可以爲浮寶、

〔三代實錄〕清和、貞觀七年九月十五日癸巳、太政官下知彈正臺、左右京職、山城、攝津、伊賀、近江、丹波、播磨等國、禁材木短狹、及定載車法曰、步板、簀子、枹、樽、長短厚薄、去延曆十五年初立制法、

〔佐渡志〕五、杉

赤白ノ兩種アリ、赤キヲ尙ブナリ、羽茂郡河茂村、加茂郡羽黒村ヨリイヅルモノ、大船ノ檣ニ作ルベシ、神代杉ト云モノ、物理小識ノ老杉ナリ、眞更川山居ノ池、ソノ外國中ノ深田ヨリ出ルナリ、器ニ作ルニ色淡黒ニシテ愛スベシ、

〔土州淵岳志〕中、杉

野根山杉名物ナリ、此山ノ古キ杉ノ根ハ香氣アリ、不淨ヲ拂ヘリ、ムモレ杉、一種ノ奇香トナスニ堪ヘタリ、

〔倭訓栞〕前編十二、すぎ中、神代杉と稱するは、箱根の湖の水底より出るをいへり、土佐杉など

同じく木理を賞せり、掖玖杉は酒家の槽に佳とす、

〔古事記〕上、答白、彼八岐大蛇目如赤加賀智而、身一有八頭八尾、亦其身生蘿及檜榲、其長度谿八谷八尾